

小中一貫教育実践校

## 開進第一中学校・早宮小学校・開進第一小学校

### 中学校区の特徴

- ・両小学校の児童の多くが開進第一中学校に入学する校区である。
- ・青少年育成第二地区委員会の行事への関わりが三校を結んでいる。

### 目指す児童・生徒像

- ・知徳体のバランスのよい育成を図る。
- ・発達段階に応じて、社会性を身に付けた児童・生徒の育成を図る。

## I 小中一貫教育の推進

### 1 目指す児童・生徒像の具現化に向けた取組

#### (1) 学力・体力の向上

- ・理科分科会では、今年度、各校の課題である、思考力・判断力・表現力を養うために課題改善カリキュラムを作成した。
- ・音楽科分科会では、今年度、鑑賞の分野において協働的な学習を通し、言語表現能力を伸ばして自分の意見を伝える力を身に付けさせるために課題改善カリキュラムを作成した。
- ・国語科、算数・数学科、外国語・英語科、社会科、図画工作・美術・技術科、体育科、家庭科の各分科会では、昨年度までに作成した課題改善カリキュラムを基に、今年度の実施状況や使用状況について情報交換を行い、適宜修正を行った。

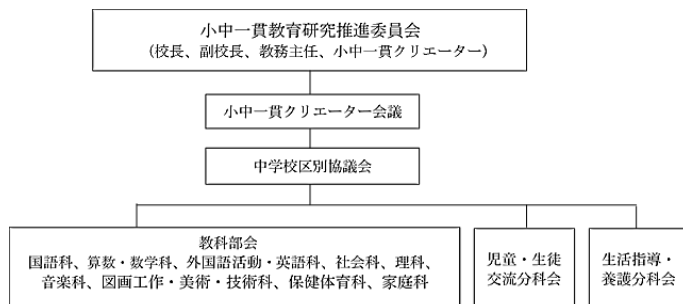
#### (2) 豊かな人間性・社会性の育成

- ・児童生徒交流分科会では、「あいさつ運動」を連携して行っており、今年度も継続して行うことができた。開進第一中学校の2年生が、小学校で「職場体験」を行った。また、3校の情報を共有する場として、小中連携交流掲示板を活用した。

#### (3) 安定した学校生活

- ・児童生徒交流分科会では、開進第一中学校の各部活動が、小学校6年生を対象とした部活動体験を実施した。また、体験後に小学校児童が感想を書き、中学校へ渡し、交流を図った。本年度は、10月に開一小、早宮小の6年生が中学校を訪れ体験した。また、各小学校の6年生の児童が中学校を訪問し、クラスの授業を見学したり、中学校の生徒会執行部で作成した学校紹介のDVDを見たりした。

### 2 教育プラン推進のための推進組織



### 主な予定(年間計画)

- 6月 21日 校区别協議会(開一中)
- 7月 9日 中学校訪問(開一小)
- 9月 12・13日 職場体験(開一小・早宮小)
- 9月 17日 中学校訪問(早宮小)
- 10月 4日 部活動体験(早宮小)
- 10月 24日 部活動体験(開一小)
- 11月 12日 校区别協議会(開一小)

## II 実践校の特色ある取組

### 1 成果と課題

#### (1) 学力・体力の向上

##### ア 国語科分科会

###### 【成果】

- ・感想を交流し、同じ登場人物に対しての互いの考え方が違うことに気付いていた。
- ・自分の考えを書く時間を十分とることで、自信をもって話し合う姿が見られた。
- ・書き方の観点を示すことで、一人一人が自分の考えを書くことができた。

###### 【課題】

- ・交流や話し合いの仕方を、発達段階に応じて身に付けられるようにしたい。
- ・自分の考えをもつことが苦手な児童への手立てをさらに考えていく必要がある。



互いの考えを聞き合う

##### イ 算数数学科分科会

###### 【成果】

- ・図形領域の授業を課題改善カリキュラムに沿って小学校・中学校共に進めていくことができた。その中で、基本的な作図方法や具体的な操作活動を重点的に行った。
- ・基本的な作図の仕方や正しい用具の使い方を丁寧に指導したことにより、用具の使い方が定着してきている。

###### 【課題】

- ・図形の領域は、年間を通して学習時間が短いので、その単元を学んでいる間はよく理解していても、時間が経過すると、作図の仕方などを忘れてしまう傾向がある。定着させるために、図形領域以外でも活用する必要がある。



角の二等分線の作図

##### ウ 外国語英語科分科会

###### 【成果】

- ・課題改善カリキュラムに沿って発達段階に合わせた段階的な授業を展開できた。
- ・外国語を用いて、書く(英文を書き写すなど)活動ややりとり、発表を多く取り入れることで、コミュニケーションを意識した学習に積極的に取り組むことができた。

###### 【課題】

- ・小学校と中学校で具体的な学習内容を共有するタイミングがあると、見通しをもって指導しやすいくと感じた。



やりとりの様子



This is my Hero スピーチ 英作文作品

##### エ 社会科分科会

###### 【成果】

- ・電子黒板にグラフや地図などの資料を提示したり、画面に書き込んだりすることで、児童の興味、関心を高め、知識を豊かにすることができた。
- ・児童が自分たちで調べたことを表やグラフで表す作業を通して、具体的な視点をもてるようになった。また、資料から多くの情報を得ることができた。



グラフにまとめよう

【課題】

- ・地図の見方や地図記号などの理解に個人差があり、自分の考えを表現することが苦手な児童がいるので、基礎的なことについては指導を徹底したい。(3年生)
- ・グラフの読み取りについては、発達段階に合わせて、適切な視点をもてるような指導をしていきたい。

オ 理科分科会

【成果】

- ・小中それぞれで、違いや共通点を見付けられるようになった。また、比較して理由を考えられるようになった。さらに、条件による違いを比べることにより、考察を詳しく、具体的に書けるようになった。

【課題】

- ・自分の考えをもち、他の児童・生徒の発表を聞くことで、さらに児童・生徒自身が自らの考えを深める指導を行うことが課題である。



図を用いて比較する

カ 音楽科分科会

【成果】

- ・意見交換することで考えの幅と深みが増した。

【課題】

- ・感受したものを表現や鑑賞にどうつなげるか更なる探究が必要である。  
(低学年は言葉で表現するのはまだ難しい)



友だちの動作を取り入れ、真似をする小学校1年生の様子

キ 図画工作・美術・技術科分科会

【成果】

- ・小・中学校の担当で9年間の見通しをもてるように表を作成することができた。
- ・小学校段階での既習事項を確認することで、中学校での導入をスムーズに行うことができた。

【課題】

- ・各小学校で行っている内容が少し違うため、中学校段階での知識や経験にやや差があることが分かった。
- ・今年度は「切る」道具について、9年間を見通した表を作成した。今後、図工・美術を中心に「塗る」(絵に表す)等についても同様に進めていく必要がある。



切断(のこぎり)の様子(小3)

ク 体育・保体科分科会

【成果】

- ・マット運動の授業では、ペア活動を行い、お互いにアドバイスをすることで、足の振り上げ方の技能が定着した。
- ・ベースボール型の授業では、反復練習を繰り返すことで、技能が定着した。
- ・水泳の授業では、平泳ぎの指導を段階別に行うことで、技能が定着した。

【課題】

- ・マット運動では、小中共通の課題として、回転系の技の定着率が低い。
- ・ベースボール型では、小学校と中学校の技能面、用具面の系統性が課題である。
- ・水泳では、平泳ぎの正しい泳法に課題がある。



水泳授業風景

## ケ 家庭科分科会

### 【成果】

- ・3校共通の「ミシン検定カード」を作成した。技能面での小中統一の基準をつくることができ、進級後も児童生徒の技能を継続して伸ばせるしくみがあった。
- ・保護者や地域の方と連携し、技能面をきめ細かく見とることで技能の定着を図ることが期待できる。

### 【課題】

- ・「ミシン検定カード」の活用の仕方については次年度以降さらなる検討を図っていく必要がある。  
(小学生が学ぶ場を作る。交流できる機会を作る)
- ・個人によって技能面での差がみられるため、児童一人一人が確実に技能を身に付けられるように、教具の工夫や個に応じた対応ができる場の設定など、検討していく必要がある。



ミシンの使い方に慣れよう

## (2) 豊かな人間性・社会性の育成

### ア 児童生徒交流分科会

#### 【成果】

- ・中学校の生徒会執行部が中心となり、部活動紹介ビデオを制作した。小学生が事前に部活動の体験先を決める参考資料にしてもらった。また、映像を見せることで意欲を高めさせることができた。
- ・部活動体験後、小学生には体験を終えての感想を書いてもらった。それをメッセージカードとして中学校に送り、校内に掲示し交流を深めることができた。



部活動体験後の児童の感想を中学校に掲示

## (3) 安定した学校生活

### ア 生活指導・養護分科会

#### 【成果】

- ・各学校の実態に応じてどういうきまりを作っているかを情報交換することで、自校のきまりを見つめ直すことができた。
- ・部活動体験をしている最中での、小学生のけが・体調不良発生時の対応について、フローチャートを作成し、3校で共通理解をもった。次年度以降緊急時に活用していく。

#### 【課題】

- ・小・中つながりのある学校のきまりの作成以外にも、日ごろから生活指導関係のトラブル(不審者・SNS等)について、地域の情報を共有していけるようにする。

## III 今後の取組

- ・生活指導・養護分科会は、今年度新設された分科会であるため、今後話し合いを深め、中学校進学に向けて活用できる連絡・相談体制づくりをしていく。
- ・各教科部会において、課題改善カリキュラムの全体の見直しを行い、具体的に深めていきたい。
- ・今年度初めて中学校の合唱コンクールにおいて、小学校の音楽専科の教員が審査員として参加するなどの連携を行った。この取組みについて、来年度以降においても音楽科分科会で検討していきたい。